

# 世わやがトカラ情報

南北160km  
「心をつなぎ 気概に満ちた」十島の教育

十島村教育委員会  
〒892-0822鹿児島市泉町13番13号  
TEL 099-227-9771

## 【先の見通せない今だからこそ！ できることを！！】

十島村教育委員会教育長 木戸 浩

フェリーとしま2の火災事故以来、制限のある中で日々の生活を送られていることと思います。本当に大変な毎日だと思っています。そういう時だからこそ、今できることを皆さんで協力し、知恵を出し合いながら、前向きに進んでいけるように願っています。

### 1 「慕う、慕われる」という関係へ —「尊敬」と「親しみ」から—

文教大学の石田恒好学長は、教員を志す学生に常日頃、次のように指導されているそうです。「先生は専門の強さで尊敬され、人柄のよさで親しまれる『慕われる』先生でなければならぬ。」その上で、教育相談(子ども、保護者)に関する要点を次のように記されていました。

- (1) 教育相談は、まず、面談で信頼関係 (rapport) をつくるのが大切である。
- (2) 相談がうまくいかどうかは、相談者と来訪者の間に、何でも話せる。何でも聞いてくれる。何を話しても大丈夫という信頼関係がつかれるかどうかにかかっている。
- (3) この信頼関係がつかられれば、相談は百パーセント成功すると言っても過言ではない。
- (4) すなわち、『信頼関係』があるから相談できる。『信頼関係』があるから治療できるのである。

さらに石田先生は、「教育も同じで、『信頼関係』があるからこそ教育できると言える。」と主張されており、以下のように御自身の考えを述べていらっしゃいました。

「先生と児童生徒とのよい教育的な関係は、親しい友達関係という横の関係ではなく、『慕われる』という縦の関係であるべきだ。児童生徒から『何でもよく知っている。何でもできる。』と、専門(知識、技能等)の強さで尊敬され、人柄のよさ(明るく、優しく親切、熱心、公平等)で親しまれる。この『尊敬』と『親しみ』が組み合わさったときに、『慕われる』という関係ができる。」

いよいよ学年末にさしかかります。子どもとの関係、職員同士の関係、そして地域との関係をより強く結ぶ各学校での工夫改善や実践に期待しています。小学校においても、中学校においても、全ての職員が「おはよう」と目を合わせた顔でのあいさつ。「元気？」と声をかけながらのハイタッチ等。「いいね、さすが」などと一人一人への温かみのある声かけ。

「先生、見て、見て、見て…」の声に、にこやかに振り向く先生。登校した子どもを迎える板書の言葉やイラスト。それらに嬉しそうに答える子どもたちの健気なまなざし。一人一人の成長と併せて学級の雰囲気さをさらに盛り上げ、総仕上げにふさわしい学年末にしてほしいものです。

ふれあいとは、「目をかけ(目でふれる)、手をかけ(手でふれる)、声をかけ(声でふれる)である」。そんな教えを思い出します。「慕う、慕われる」という信頼関係が一層深まり、子どもはもちろんのこと、職員一人一人の“実りと志”がじっくり温まり規律の整った学年末になりますように！

### 2 大きな木は、ゆっくり育っている。

これはある子どもの詩です。人は、「大きな木になりたい」という願いを心の中で秘かに温めています。根を張り、茎を伸ばし、葉をいっばい茂らせたいと思っているに違いありません。

ぼくは 芽  
土に支えられ 生きていく  
根をはって  
どんどん どんどん  
大きくなって  
そして  
大きな木に になりたいな

子ども一人一人の志の中身も、育つ時期や速度も違っています。それを支える「土」をどう作っていくか。教育に携わる者として何を為すべきか私たちの創意と熱意、チームワーク・ネットワーク・フットワークで、今年も怯むことなく心を尽くし、決して諦めることなく進んでいきましょう。大きな木は、自然の厳しさに耐えながらゆっくりゆっくり育っているのです。目を背けず本気で、正面から向き合っていきたいものです。

村民の皆様も、子どもたちの成長を温かく見守っていただくと幸いです。

子供のうた  
(二月一日  
南日本新聞掲載)

ちきゅう  
ぐるぐるまわる  
ずつとまわる  
一生まわる  
時計まわる  
みんがまわる  
目がまわる  
口之島小三年  
立石 桔月



## 【新聞に投稿】

令和5年12月31日 南日本新聞「若い目」掲載

### 努力を積み重ねる

平島小五年 北山悠生

走大会が中学校の持久走大会がありました。私は、練習を怠らないうえに、走り幅走も練習しました。当日は暖かく、風も穏やかでいいコンディションでしたが、絶対目標に向けて走りました。走り幅走は、スタートから最後まで、自分のペースを守り、最後まで走り抜きました。走り幅走は、スタートから最後まで、自分のペースを守り、最後まで走り抜きました。



令和5年12月4日 南日本新聞「若い目」掲載

### 気付き多い交流 世界を知りたい

悪石島小五年 古里真人

国際協力機構(JICA)の海外協力隊員としてスリランカに派遣された。スリランカの食事は、カレーが大好きな僕は、一度行ってみたいと思っただけで、海外の方とはたくさん関わっていきたくて、仲良く話したい。スリランカの食事は、カレーが大好きな僕は、一度行ってみたいと思っただけで、海外の方とはたくさん関わっていきたくて、仲良く話したい。



私が中之島に来て約2年。色々なことを経験しました。運動会や文化祭、卒業式や入学式などたくさんの行事を行ってきました。その中で、私の記憶に一番残った出来事を紹介します。

それは、今年行われた運動会です。中学生は毎年演舞を発表しているのですが、私はダンスが苦手なのであまり練習には前向きではありませんでした。また、中学生が四人しかいないのでちょっとしたミスでもすぐに目立ってしまいます。それでも、放課後や部活の時間を使って何とか運動会当日までに完成させることができました。最後の紅白リレーでは、白組が私たち紅組を抜いたままアンカーの中学三年生にバトンが渡ったので私は紅組の想いを背負い走り抜きました。結果は、テイクオーバーゾーン手前で抜いて紅組を優勝に導くことができました。この運動会では、当日の運営や前日の準備、後日の後片付けにたくさんの地域の方が参加してくださり、スムーズに運営や作業が進んでいく様子を目の当たりにしました。

このように、この島では、運動会に限らず学校の人数だけではできない作業も地域の方々と協力して行っていて、私はこのことを、島という環境だからこそ得られる温かみだと思っています。この温かみを大切に、感謝しながらこれからも生活していこうと思っています。

### 【諏訪之瀬島小・中学校からのメッセージ】 教諭 徳留祐貴

諏訪之瀬島小・中学校へ赴任して1年10か月が経ちました。諏訪之瀬島の豊かな自然、御岳や根上岳の雄大な、明るく元気な子どもたち、優しく接して下さる地域の方々など多くの人やものに出会い、感動し、常に楽しい経験をしています。

諏訪之瀬島小・中学校は、私にとって初めての小中併設校での勤務です。小学生に加え、中学生もいる校内は、とても新鮮です。中学生は、優しく、リーダーシップがあり、小学生の手本になっています。小学生が、頼りになる中学生に憧れ、「いつか私もお兄さん・お姉さんになりたい。」と感じて日々、学校生活を送っている様子が見られます。

本校は、特別活動がとても盛んです。委員会活動を全校児童生徒で行っています。掃除や朝のボランティア活動も縦割り活動です。儀式的行事では、小学2年生以上の全員が、毎年1回、児童生徒代表あいさつをします。総務集会委員会では、全児童生徒が一堂に会する朝レクと昼レクを毎月企画・運営します。春の1日遠足は、切石港へ行き、釣り班と乙姫の洞窟探検班に分かれて活動します。年度末のお別れ遠足は、公民館でカレーを作り、野外炊飯も火起こしからします。作文発表会、島民合同体育大会、トカラリレーマソン、文化祭、持久走大会、節分の豆まき、卒業生を送る会など行事も充実しています。

小中併設の良さを生かした教育活動で子どもたちと共に成長していきたいと思っています。これからも多くの出会いに感謝し、諏訪之瀬島での生活を楽しくしていきます。

### 『教職員仲間であるあなた』への 私からのメッセージ

今年度も残り少なくなりました。かけがえのない日々を大切に過ごしていきましょう。

